

所蔵品展示目録



- 展示室 1
 - ・1-A 世紀末のパリ
 - ・1-B・C 開館35周年記念 山本芳翠 展
 - ・1-D うるはしの工芸
 - ・1-E めでたし、金屏風
- ホール・ロビー
Such Such Such(あんな・そんな・こんな)
- 屋外彫刻

展示室1-A 世紀末のパリ

2018年1月3日(水)-2月25日(日)

*印は寄託作品

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
ピエール・ピュヴィド・シャヴァンヌ	(1824-1898)	『慈愛』のための習作	1893-94頃	油彩、紙
アンリ・ファンタン＝ラトゥール	(1836-1904)	大画帳(真理)	1884-85	リトグラフ、紙
オーギュスト・ロダン	(1840-1917)	イヴ	1883頃	大理石
オディロン・ルドン	(1840-1916)	手稿		木炭、紙
		翼のある横向きの胸像(スフィンクス)	1898-1900頃	パステル、木炭、白チョーク、紙
		まなざし	1889-94頃	パステル、木炭、コンテ・クレヨン、紙
		眼をとじて	1890	リトグラフ、紙
		シュラムの女	1897	リトグラフ、紙
版画集『聖ヨハネ黙示録』	1899	リトグラフ、紙		
ポール・ゴーギャン	(1848-1903)	宇宙創造(自刷り)	1893-94	木版、和紙
マックス・クリンガー	(1857-1920)	版画集『死について、第一部』	1889	エッチング、アクアティント、紙
アルフォンス・ミュシャ	(1860-1939)	* 花飾りを付けた娘		油彩、画布
マクシム・モフラ	(1861-1918)	波	1894	エッチング、アクアティント、紙
エミール＝アントワヌ・ブルデル	(1861-1929)	アポロンのマスク	1900	ブロンズ
エドヴァルト・ムンク	(1863-1944)	ヴァンパイアⅡ	1895	リトグラフ、紙
アンリ・ド・トゥールーズ・ロートレック	(1864-1901)	* マルセル・ランデの胸像	1895	リトグラフ、紙
【資料】		『パリ・イリュストレ』	1884	

展示室1-B・C 開館35周年記念 山本芳翠 展

2018年1月3日(水)-2月25日(日)

*印は寄託作品

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
やまもとほうすい 山本芳翠	(1850-1906)	洋風肖像画	1872-76頃	絹本着色
		福地源一郎の肖像	1876-77頃	油彩、画布
		裸婦 【重要文化財】	1880頃	油彩、画布
		若い娘の肖像	1880頃	油彩、画布
		白勢和一郎の肖像(部分)	1880頃	油彩、画布
		ヴェルサイユにて	1880-81頃	水彩、紙
		琉球漁夫釣之図	1887-88頃	油彩、画布
		* 琉球令正婦人肖像	1887-92頃	油彩、画布

山本芳翠	(1850-1906)	* とらね 灯を持つ乙女	1892頃	油彩、画布
		うらしま 浦島図	1893-95頃	油彩、画布
		* そうせんおししょうぞう 象先和尚肖像	1894-95頃	油彩、画布
		めいじびじゅつかいつうかいしんがう 明治美術会通常会員画帳『小宴紀念』より きんしゅう 金州(錦州)	1895	淡彩、絹
		にんげんばんじさいおま 人間万事塞翁が馬	1895頃	紙本墨画淡彩
		ヒボクラテス像	1902頃	紙本墨画淡彩
		いとうひろぶみ 伊藤博文公肖像	1903	油彩、画布
		虎	1905	鉛筆、紙
		海岸風景	1906頃	油彩、板
		いなかや 田舎家	不詳	水彩、紙
		かいひん 海浜風景	不詳	油彩、画布
		すずめ 雀図	不詳	紙本墨画
		どうじぞう 童子像	不詳	油彩、紙
きた れんぞう 北蓮蔵	(1876-1949)	山本芳翠肖像	1939	油彩、画布
【資料】ジュディット・ゴージェイ(著)、山本芳翠(挿絵)		せいれいしゅう 『蜻蛉集(Poemes de la Libellule)』	1884	
【資料】ジャン・フルー(著)、山本芳翠他(挿絵)		いと 『愛しき人(Les Maitresses)』	1886	
【資料】ロベール・ド・モンテスキュー(著)、山本芳翠(挿絵)		こうもり 『蝙蝠(Les Chauves-Souris)』	1893	
【資料】文部省(発行)、山本芳翠他(挿絵)		こうとうしょうがくどくほん 『高等小学読本』	明治期	

展示室1-D うるはしの工芸

2018年1月3日(水)- 2月25日(日)

* 印は寄託作品

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
ごだい 五代 加藤 幸兵衛	(1893-1982)	きんらん で ご す そう か え みずさし 金欄手具須草花絵水指	1975	磁器
かわせ 川瀬 竹翁	(1894-1983)	きんらん で すかし 透彫花鳥文仙蓋瓶	1957	磁器
あらかわ 荒川 豊蔵	(1894-1985)	せとぐる きんさい このはもんちやわん 瀬戸黒金彩木葉文茶碗	1971	陶器
		しのちやわん めいほうらい 志野茶碗 銘蓬萊	1941	陶器
いわた 岩田 藤七	(1893-1980)	みずさし 水指	1973	色ガラス
		かい 貝	1976	色ガラス、型吹き
		か き 花器	1979	色ガラス
かがみ 各務 鑣三	(1896-1985)	うりもんざら 瓜文皿	1937-38	グラヴェール、被せガラス
		花器 めいしゅんやう 銘春陽	1972	クリスタルガラス、宙吹きにグラヴェール
		ひまごがたかき 瓢形花器	1983	クリスタルガラス、宙吹きにカット
つかもと 塚本 快示	(1912-1990)	* はくじょうこくもんおおざら 白瓷烏刻文大皿	1978	磁器
		せいはいくじりんかわん 青白磁輪花碗	1981	磁器
		せいはいくじごうす 青白磁合子	1982	磁器
かとう 加藤 卓男	(1917-2005)	さいかちやうもんほないけ ラスター彩花鳥文花生	1981	陶器
		さんさい か き めい そうやう 三彩花器 銘 爽容	1990	陶器
いわた 岩田 久利	(1925-1994)	皿	1980	色ガラス
		花器	1987	色ガラス
		はくきよくひゅうまいもん つば 白磁流影文壺	1989	色ガラス

【屏風(びょうぶ)鑑賞の豆知識】

(1)屏風の歴史

屏風は白鳳(はくほう)時代(646年の大化の改新から710年の平城遷都までの時代)に、中国から日本に伝わったと考えられています。「風を屏(ふさぐ)」という名前が表わすように、本来は風や人目をさえぎるための調度品(ちょうどひん)ですが、同時に權威の所在を示す象徴としても扱われ、宮廷や寺院の盛大な儀式や貴族の日常の調度など様々な場面で用いられました。室町時代になると紙の蝶番(ちょうつがい)が発明され、現在のような「く」の字型が連続して蛇腹(じゃばら)状に折り曲げて畳める形式が確立しました。

(2)屏風の数え方

横につながった屏風の一つの面を「扇(せん)」と呼びます。扇は向かって右から左に向かって、第一扇、第二扇と数えます。折れ曲がった扇の数によって、屏風の形状は「二曲(にきょく)」「四曲」「六曲」などと数えます。また左右で一組になった屏風は「双(そう)」と数え、対ではない屏風は「隻(せき)」と数えます。六曲の屏風が一对になっていれば「六曲一双(ろっきょくいつそう)」です。対の屏風の、向かって右側を「右隻(うせき)」、左側を「左隻(させき)」と呼びます。

(3)屏風の左右の見分け方

屏風絵の隅にはしばしば落款(らっかん)が記されます。落款とは、東洋で書や絵を制作した際に、制作の日時や作者の名前を書いたり、印を押したりしたもので、西洋画でいう「サイン」に相当します。一双の屏風の場合、落款は原則として、右隻の右端と左隻の左端に記されます。逆に言えば、この落款の位置で、屏風のどちらが右でどちらが左であるかがわかります。

(4)屏風の飾り方

屏風はジグザグに折り曲げて飾るのが本来の展示方法です。図録等では平たく伸ばした状態で、絵の部分のみを切り取った写真が掲載されているため、「平らに伸ばしたところを見たい」というご意見もいただきます。けれども、ほとんどの画家は屏風絵を描く際に、どこが凸型に出っ張り、どこが凹型に引っ込むのか、計算して構図を決定しています。したがって、折り曲げて展示した状態で見ることが、作家の意図に沿った鑑賞ができるのではないのでしょうか。

(5)金屏風

屏風の中でも特別な意味を持つのが金屏風です。金箔(きんぱく)を全体に箔押しした屏風をさし、時には金地の上に絵が描かれます。金屏風が置かれる場所は、日常ではない、「ハレ」の場と認識されます。

*印は寄託作品

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
おおはし すいせき 大橋 翠石	(1865-1945)	とら ず 虎図	1938頃	絹本金地着色
かわい きょくどう 川合 玉堂	(1873-1957)	しょうしょうかく 松渚双鶴	1931	絹本金地着色
たまや しゆんき 玉舎 春輝	(1880-1948)	ぶりとうげん ず 武陵桃源図	1921頃	絹本金地着色
まえだ せいそん 前田 青邨	(1885-1977)	ゆうぎよ 遊魚	1921頃	紙本着色(金泥)
		こうはくばい 紅白梅	1959頃	紙本着色
		* ころはくばい 紅白梅	不詳	紙本着色
		* うめ しょうきん 梅に小禽	不詳	紙本着色
かわさき しょうこ 川崎 小虎	(1886-1977)	* はる 春	1926頃	紙本金地着色
		こいぬ 仔犬	1963頃	紙本墨画淡彩
なかがわ 中川 とも	(1890-1982)	なんてん 南天	1960頃	紙、ポスターカラー、墨
はせがわ ちようふう 長谷川 朝風	(1901-1977)	そびよう 素描	1922-27頃	紙本墨画淡彩
かとう えいぞう 加藤 栄三	(1906-1972)	ばら	1961	紙本着色
つちや てるお 土屋 輝雄	(1909-1962)	こいぬ 仔犬	1943	紙本淡彩
かとう とういち 加藤 東一	(1916-1996)	かく 赫	1959頃	紙本着色
まつお としお 松尾 敏男	(1926-2016)	* こうはくぼたん 紅白牡丹	不詳	紙本着色

展示室外・館外の作品

【美術館ホール、ロビー】

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
ジャコモ・マンズー	(1908-1991)	おお すうききょう 大きな枢機卿 Such Such Such 対象作品C	1982	ブロンズ
あづま けんじろう 吾妻 兼治郎	(1926-2016)	MU-812	1981	ブロンズ
ジュリアーノ・ヴァンジ	(1931-)	こ どもを連れて男 No. 2 Such Such Such 対象作品B	1974	ニッケル、銀、大理石、象牙
ヴァレリアーノ・トルツビ アーニ	(1937-)	いかり 錨を上げる	1975	ブロンズ、アルミニウム、鉄
		よる ばんにん 夜の番人 Such Such Such 対象作品A	1980	銅、アルミニウム
あまの ひろお 天野 裕夫	(1954-)	せみくじら 背美鯨	1984	テラコッタ、ステンレス、石
		ティオティワ ^あ 壺カン	2002	石、ブロンズ

【庭園(正面)】

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
ピエール＝オーギュスト トールノワール	(1841-1919)	しょうり 勝利のヴィーナス	1914	ブロンズ
アリストイド・マイヨール	(1861-1944)	ちちゅうかい 地中海	1902-05	ブロンズ
たかはし きよし 高橋 清	(1925-1997)	第3の太陽	1982	白御影石
リ ウファン 李 禹燮	(1936-)	かんけいこう 関係項	1987	鉄、自然石
おおなり ひろし 大成 浩	(1939-)	風の影 No.1	1982	白御影石
えのくら こうじ 榎倉 康二	(1942-1995)	壁	1971 (再制作1995)	コンクリート
こしみず すすむ 小清水 漸	(1944-)	アララトの舟 ^{ふね}	1992	銅、鉄、水、白大理石
すぎつら やすよし 杉浦 康益	(1949-)	とう 陶による石の群 ^{むね}	1985	陶
あまの ひろお 天野 裕夫	(1954-)	バオバブ・ライオン	2002	陶、ブロンズ
はやし たけし 林 武史	(1956-)	立つ人 ^{つきみだい} 一月見台	2010	安山岩

【ホール東側】

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
カク インシク 郭 仁植	(1919-1988)	さくひん 作品 86-ST	1986	米松、墨

【庭園(北)】

作者名	(生年-没年)	作品名	制作年	技法、素材
たなか いさお 田中 薫	(1944-)	なな つ き 七つの積み木	1982	ステンレス・スチール、鉄、 モーター、タイマー